

あるくてるてるぼうず

小一・久野 夏葵

私の名前は、はな。明日遠足なんだけどね、ニュースでは雨よほう。雨いやだよ。だって、遠足がもう二回ものばされているもん。だから、学校でてるてるぼうずを作ったの。

みんなが下校時間に帰っても、私帰らなかった。さっき作ったてるてるぼうずに、ぜったい雨がふらないようにおねがいするため。私は、教室の後ろのまどにつけたてるてるぼうずに

「明日ぜったいにはれますように。」とおねがいました。

でも、外を見たらぶあつくもがいつぱいで雨がふりそうだったから、いそいで帰ろうとしたの。そしたら、足音が聞こえる。だれの？ ふりむいたらびっくり！ てるてるぼうずがあるいてる！

「どうしてあるいてるの？」

「あのね、外でぎしきをやったほうがはれやすいの。」  
てるてるぼうずがしゃべった。よく見ると足もはえている。

「そうなんだ。私、雨がふりそうだから帰るね。またねー。」  
つぎの日、学校についた時、教室に入ると、てるてるぼうずがげいをしていて、みんながおどろいて見ている！ てるてるぼうずは、さかだちのままジャンプをして同時にはくしゅをしていた。

ゆりちゃんとはやくくんは、「てるてる」という名前をつけていた。いつのまにか、てるてるぼうずは教室の中みんなの友だちだった。

先生は校長先生とそうだんをして、遠足にでるでるをつれて行くことになった。

でるでるはこうふんしすぎてライオンみたいな声を出した。

「やったー。うおー。」

みんな耳をふさいだ。

遠足の行き先はわかってないけど、

「きっと野原だよ。」

とか、でるでるははしやいでる。

学校からのったバスの中、でるでるははしやぎすぎて、つかれて気持ちよさそうにお昼ねしていた。まだ九時半だけど。

もくてき地ののの原公園についた。でるでるって食いしんぼう。だって、ついてすぐに

「おべんとう食べようよー。」

なんて言ってるもの。

先生は今からすることの話をしている。

「今からしぜんのもので、きれいだなあと思う物を持ってくるのよ。でるでるもみんなと同じことをするのよー。わかった？」

私はハルジオンをとった。でるでるはシロツメクサ。みんな、でるでるのおせわをしたりして、ちよつと時間がおそくなっちゃった。みんなでおし花を作った後は、おべんとうを食べた。私はでるでるに自分のおべんとうを分けてあげた。でるでるの、パクツもぐもぐと食べているところがかわいくて、楽しくなったよ。みんなも楽しくて、いっぱいいらった。

バスで帰る時、でるでるの名前コンテストがおこなわれ、でるでるの名前は「てくてく」になった。てくてくあるくから。

つぎの日、学校につくと、てくてくがもとどおりのふつうのでる

---

てるぼうずにもどっていて、教室の後ろのまどにつり下がっていた。  
私のつくえにτεくてくのおし花と手紙がおいてあつて、こう書いてあつたの。

「はなちゃんへ

ぼくは、もとのてるてるぼうずにもどりました。また、雨がふるときにτεくてくになって、雨がふらないようにぎしきをおこします。τεくてくより。」

「またこんど。τεくてく。」

と私は言つた。ちよつとだけ、シロツメクサのおいがした気がした。

---



画：室井さと子